BSFS｜便形状・排便の臨床記録

01｜7タイプの特徴と排便日誌

氏名／ID：_____ 記録期間：_____〜_____

記録者：_____ 情報：□本人観察 □介助者観察 □本人申告

便形状の目安｜公式チャートと照らして分類する

タイプ	特徴の要約
1	硬い粒がばらばら。
2	硬い塊がつながり、表面がごつごつ。
3	形があり、表面にひびがある。
4	なめらかで軟らかい一本状。
5	輪郭がはっきりした軟らかい小片。
6	輪郭が崩れた泥状・不定形。
7	固形物のない水様。

番号は重症度の合計点ではない。高いほど良いとは限らない。
排便なしは「なし」、未確認は「不明」。混在は「初め1、後半6」など経過を記録。

1回ごとの記録｜不足する場合はこのページを追加する

日付・時刻	タイプ／混在	量の目安	いきみ・残便感・痛み・漏れ	薬・介助など

量は同じ目安（少・中・多など）で記録。薬・坐薬・浣腸や観察条件の変更も補足。

分類は原版をご確認ください。本紙は特徴を要約した臨床記録で、公式図版の転載ではありません。
公式チャート・入手案内 ／ Lewis & Heaton, 1997：原著

BSFS｜便形状・排便の臨床記録

02｜便形状と生活の変化をつなぐ

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 担当：_____

同じ期間で比較｜平均値だけで判断しない

確認項目	前回：____日間	今回：____日間
各タイプの回数	1:___ 2:___ 3:___ 4:___ 5:___ 6:___ 7:___	1:___ 2:___ 3:___ 4:___ 5:___ 6:___ 7:___
排便なしの日数	_____日	_____日
いきみ・残便感・漏れ		
排便・介助に要した時間		

混在・不明の扱い／観察者・薬・食事・環境の変更：

追加で確認すること

□便意と意思表示 □移動・更衣 □座位と足の支持 □援助のタイミング
□摂取状況・飲水制限 □薬・処置 □腹痛・膨満 □排出困難・便貯留の評価

本人が困っていること／目標：

支援計画・再評価

課題	対応・担当	確認日
症状・医学的評価		
動作・環境		

次回評価：_____ 本人の負担・生活の変化：_____

タイプ3〜4でも排出困難があれば確認を続ける。便秘後の水様便・漏れは便貯留も検討。
血便、強い持続的腹痛、嘔吐、ガスが出ない、発熱などは受診・報告を優先。

便通異常症診療ガイドライン2023―慢性便秘症 ／ Blake et al., 2016
脊髄損傷後の神経因性腸機能障害ガイドライン, 2021